

※A3版に拡大してお使いください。

2	視 写
言葉の力をつけよう（新聞コラムの視写⑥）	
佐賀新聞 有明抄「若者言葉の先取り」	
名	前

やってみよう

新聞の第一面にあるコラム記事は字数が限られているため、段落を改める箇所を各社の決まりを設けて表記してあります。「佐賀新聞」の「有明抄」では段落を改める箇所では、句点「。」と改行をまとめて◆で示してあります。「有明抄」の◆部分は原稿用紙の書き方に従って、句点「。」を付け、改行して視写しましょう。

有明抄 「若者言葉の先取り」

「すごい」ことを「すごつ」、「寒い」を「寒つ」という。文化庁の国語世論調査で、七十〜八十%台の人が「気にならない」と答えているから、若者だけでなく大人にも浸透した言葉遣いだろう◆この末尾を促音（そくおん）で終わる表現、どこかで聞いたような気がすると考えたら、佐賀弁に思い当たった。「そがんとも知らんとや」に「いんにや、知つとつ（知っている）」と言いつす。玄関を出て「ありや、雨が降いよつ（降っている）」と気づく◆末尾の「る」がほとんど促音として発音される。ほかにも「逃げる」を「ちんにぐつ」、「捨てる」を「ふつつつ」、「寝る」を「ぬつ」などがある。佐賀弁の促音止めは、当世の若者言葉の先駆けだったかも。都会へのコンプレックスからか、あまり使われなくなったのは残念である◆佐賀弁がもっとも輝いていたのは、筑紫美主子（つくしみすこ）さんの「佐賀にわか」の舞台だった。佐賀弁が縦横に行き交い、そのニュアンスが笑いを誘う。決めゼリフの「あんみやあかつ」は、ドタバタを締めくくるにふさわしく、観客の喝采を浴びた◆九十歳になる筑紫さんは、今は車いす生活だが、十一月六日に佐賀市民会館で芸歴七十五周年記念公演を開く。演じるのは大衆演劇の役者たち。体調が良ければ筑紫さんも舞台に立つことを検討している。佐賀弁をまた「聞いてみたかつ」。

佐賀新聞 平成二十三年九月十八日付 一面

--	--	--

600字

400字

200字

注 佐賀弁を駆使した即興喜劇のいわかは、江戸時代に祭礼などで素人が演じた即興劇が始まりとされ、各地に広まり寄席や劇場にも進出したが、明治後期以降は博多など一部の地域を除いて衰退した。

※ 縦書きの原稿用紙に数字を書く時は、漢数字で表記します。

言葉の力をつけよう（新聞コラムの視写⑥）
佐賀新聞 有明抄「若者言葉の先取り」

「すごい」ことを「すごっ」、「寒い」を「寒っ」という。文化庁の国語世論調査で、七十〜八十%台の人が「気にならない」と答えているから、若者だけでなく大人にも浸透した言葉遣いだろう。

この末尾を促音（そくおん）で終わる表現、どこかで聞いたような気がすると思ったら、佐賀弁に思い当たった。「そがんとも知らんとや」に「いんにゃ知っどっ（知っている）」と言いつ返す。玄関を出て「ありゃ、雨が降いよっ（降っている）」と気づく。

末尾の「る」がほとんど促音として発音される。ほかにも「逃げる」を「ちんにぐっ」、「捨てる」を「ふつつっ」、「寝る」を「ぬっ」などがある。佐賀弁の促音止めは、当世の若者言葉の先駆けだったかも。都会へのコンプレックスからか、あまり使われなくなっただのは残念である。

佐賀弁がもっとも輝いていたのは、筑紫美主子（つくしのみすこ）さんの「佐賀にわか」の舞台だった。佐賀弁が縦横に行き交い、そのニューアンスが笑いを誘う。決めゼリフの「あんみやあかっ」は、ドタバタを締めくくるにふさわしく、観客の喝采を浴びた。

④ 九十歳になる筑紫さんは、今は車いす生活だが、⑤ 十一月六日に佐賀市民会館で芸歴七十五周年記念公演を開く。演じるのは大衆演劇の役者たち。体調が良ければ筑紫さんも舞台に立つことを検討している。佐賀弁をまた「聞いてみたかっ」。

600字

400字

200字

② 行のはじめに「や」のよ
うな符号は書かないので、一番下の
ますに書き入れます。

③ 最後のますなので「も、
一つのますに入れます。

① 七十〜八十%
④ 九十歳
⑤ 十一月六日
⑥ 七十五周年
など、縦書きの原稿用紙に数字を
書く時は、漢数字で表します。

